

【杉戸町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

令和3年1月に中央教育審議会から出された「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」では、これからの「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実のために、ICTの活用は必要不可欠であると述べられており、各学校に整備したICT環境をどのように有効活用していくかが重要となっている。

本町においては、ICTを教科や学習のねらいを実現するために、効率的で深く学ぶためのツールの一つとして活用し、クラウドを活用して児童生徒自身が学びを自己調整する「児童・生徒一人一人が主語の複線型の学び」等を通して、個別最適な学びと協働的な学びが一体的に充実され、主体的・対話的で深い学びの実現を目指している。

2. GIGA第1期の総括

本町はこれまで、令和2年度中に児童生徒の1人1台タブレット端末及び校内LAN環境等を整備し、周辺機器等も含めたICT環境の整備が完了している。さらに、ネットワークについては、ネットワークアセスメントを実施して不具合の原因を逐次明らかにし、ネットワーク環境改善に向けた対応を行ってきた。

これらICT環境の整備に加え、教育委員会では、令和2年度より各校のICT教育の推進体制や授業における、児童・生徒の「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に推進のための効果的な利用を協議・共有し、杉戸町全体でのさらなる効果的な利用を推進・創造へとつなげるための推進委員会を立ち上げた。本推進委員会は、杉戸町の学校における子供の学びの効果的な活用、各校の実践状況を共有することで、各校のICT活用を促進することをねらいとし、年間3回の推進委員会を通して、ICTの活用状況や工夫について発表し、協議するとともに、ICTを活用した授業公開等を行うことで、よりよい活用の仕方等を協議している。また、協議したことを自校で共有し、広めることでICTの活用についても学校間で差が出ないように進めている。これらの取組を通して、本町における教員のICT活用指導力は、年々向上しており、今後もこれら取組の継続が望まれる。しかし、ICTを便利な文房具として活用し、児童・生徒が主体となつての授業や、校務における利活用について、学校間での取組の差が生じてきている。

そこで、これまでの研修等の取組に加え、令和6年度学校種を超えて、学力向上とICT教育のそれぞれの推進者による外部指導者を招聘した合同の研修会を実施した。これにより、教員が授業におけるICT活用について、実践事例をもとに、ICTを活用した指導法や校務における改善点について学び合う機会をつくり、児童・生徒の発達段階に応じた効果的なICT活用の在り方について研究を深め、各校が抱える課題解決につなげていきたい。

3. 1人1台端末の利活用方策

本町では、令和7年度に町内各小中学校の端末更新を計画しており、更新にあたり各学校及び関係各課が情報共有を図りながら、更新作業を進めていく予定である。また、継続的なネットワークアセスメントを行うことで、児童・生徒にとってさらに充実した1人1台端末環境を維持していくことを目指したい。

これらICT環境の充実を前提として、1人1台端末の効果的な利活用推進に向けて、次の3つの視点から目標達成に向けてその具現化に迫りたい。

(1) 1人1台端末を積極的に活用するために

各学校では、これまでも授業や校務におけるICT活用に関する校内研修を実施し、県や外部機関が実施する研修会にも教員が積極的に参加している。今後は、各学校のニーズや課題に応じた研修を実施するとともに、学校代表が参加する推進委員会や研修での学びを各学校における研修に生かしたり、積極的な情報の提供を行ったりすることで、全ての教員へ効果的な利活用についての情報共有を図りたい。

(2) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るために

児童・生徒が「自分で調べる場面」「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」「児童・生徒同士や教員とやりとりする場面」において、積極的に1人1台端末を活用することができるよう、各推進委員会において、具体的な活用事例の情報共有を図っていく。また、町内の教員が情報共有できるためのクラウドを活用した仕組みをつくり、広く周知を図りたい。さらに一人ひとりの児童・生徒の実態に応じた学びを進めるために、「複線型の学び」や「自由進度学習」について、リーディングDX指定校等の先進的な取組について紹介し、各学校において研究が深まるようにしたい。

(3) 全ての児童・生徒の学びを保障するために

不登校の児童・生徒、日本語指導が必要な児童・生徒及び障がいのある児童・生徒等に対し、1人1台端末を活用することで、学びの幅を広げ、さまざまな状況の児童・生徒の学習機会を確保していく。各学校の実態にもよるが、1人1台端末を活用し、希望する児童・生徒に対し、教育相談を行ったり、オンラインでの授業を行ったりすることが考えられる。また、障がいのある児童・生徒については、一人ひとりの特性に応じ、デジタル教材やデジタル教科書等を整備することで、学習の効果を高めたい。